

ゲストライブ

16:15 ~ 16:35



悠々ホルン氏 皆さん、初めまして。千葉県からやってきました。東京から今日はやって来たのですが、辛い状況にいる子どもたちの本音やSOS、それを歌にしたり、また動画にしたり、また講演の場でお話ししたりして代弁したり解説する、そういった活動をしています、ミュージシャンの悠々ホルンと申します。



今日はぜひ覚えて帰っていただきたいのですが、私は虐待に限らずですが、辛い状況にいる子たち、親御さんも含め、いろんな方々から毎日手紙やメールが届いています。例えば、「虐待で今こういう状態なんだ。」とか、「助けてほしいんだ。」「辛いんだ。」「もう死にたい。」というような内容が、大体ここ3、4年の間に約3,000通届いています。

実は私自身も小学生の時から親から心理的虐待を受け、2回自殺未遂を経験しました。首を吊ったのです。そういった自分の辛い経験、また、普段私の元に色々な話をしてくれ、また相談をしてくれるよ

うな方々は全国にいらっしゃるのですが、そういった方々の声をもとに私は音楽にしていたりするのですが、まず1曲、そういった辛い状況、心理的虐待がある中でリストカットを毎日しながらずっと耐えているある女の子の思い、その子が送ってくれたその文章をそのまま歌にした歌があるのです。それをまず1曲聞いてください。

「私を嫌いなママ ～リストカットの理由～」。

ありがとうございます。

今日ここに来られている方々は、多分こういった今日のお話されているような内容に結構詳しい方が多いかと思うのですが、虐待を受けている子どもたち、その子どもたちが、虐待だと認識していない子の方が多いかもしれませんが、自ら家の中で起きていることを誰か人に話したり、助けを求めたり、相談したりすることって、周りが考える以上にずっとずっと難しいことなのです。そこにはまずリスクがある。どんな理不尽な痛みを受けていても、子どもにとって家庭や家族ってすごく大事です。どんなに親に大きな憎しみや怒りを抱いていても、その根底

には親に愛されたいという思いが一番強く、一生それが残っているのです。自分が誰か外部に家のことを話して助けを求めたことによって、自分のせいでその大事な家庭を、家族を壊してしまうかもしれない。これもリスクです。そして自分が誰か外に助けを求めたことが親にばれたとき、親が悲しむかもしれない、もしくは反対に親が激怒してその虐待がもっと大きなものになってしまうかもしれない。そういったリスクがあります。

それに、幼少期からずっと否定をされ続けてきた子どもは、そもそも自分の話なんてちゃんと聞いてもらえるはずがないのだと。信じてもらえるはずがない。言ったって無駄だと。いや、むしろ自分が悪いのだというふうに受け止めている子どもがたくさんいます。そして人が怖い、人が信じられないといった心理的なそういう抵抗を持っていたりします。そういった子は結局、ものすごく毎日が苦しいのですが、自分が我慢するほかないのだと、自分が我慢してればいいのだというところに結論が落ち着いてしまう。

虐待を未然に防いでいく、少なくしていくには、たくさんいろんな大事なことはあるのですが、やはり一つ、親御さんのケアというのが非常に大事になってきますね。虐待が、できたら起こる前に早い段階で親御さんをケアできないか。

実は、私の元には、虐待をしてしまった、もしくはしてしまいそうだというお母さんからのお手紙やメールも届いてきました。その方々と色々話をしていたたくさん気付いたことがあるのですが、そういった辛い状況にいるというか、虐待をしてしまいそうだという状況の親御さんのほとんどが、子どもの頃から苦しんできたという方がほとんどです。中には、自らも子どもの時に同じように虐待を受けて育ったとか、虐待と言わずとも、何らかの人間関係であったり何らかのトラウマを持っていたりだとか、すごく傷ついた経験があったりしている。子どもの頃に傷付いたその心の傷が癒やされることなく、ずっと重い荷物として、生きづらさとして背負い続け、それで大人になっていく、親になっていくその過程で、また今度は、夫婦関係、人間関係、仕事上のストレスとか悩み、それがどんどんどんどん積み重なっていった一杯一杯になってしまう。気付いた時にはその矛先が子どもに向かっていて、それを全部子



もにぶつけてしまう、子どもに当たってしまう、そういう状況がたくさんある訳です。そういう話がいっぱい来るのです、子どもからも親からも。

そういった状況にいる親御さんたちが、もし、「私、本当に今辛くて、子どもに当たってしまうかもしれない。」とか、何かしらそういう助けを求めてくれたとしたら、すてきな素晴らしい支援者の方々が世の中にはたくさんいます。だから、もしそういった救いの声を上げてくれたらできることってたくさんあります。でも、実際のところ、そういった相談をしてくる、助けてほしいというような悩みを打ち明けてくる親御さんというのは本当に一部だと思います。そういった状況にいる親御さんほど、またその親御さんもやはり人に相談したり助けを求めることってなかなか難しいです。その一つとしては、そういう親御さんも子どもの時にそういう苦しい時代があった。子どもの時に、やはりその苦しい気持ちを誰にも言えなかった。そのまま大人になって、やはり言えないという状況の子が、だからすごく多いのです。

他にも、表向き、第三者からはそう見えなかったとしても、そういった状況にいる親御さんのほとんどが、自分はだめな親なのだ自分で思って自己嫌悪したりします。そういう親御さんほど一人で抱え込んで、自分一人が何とかしなくてはいけないのだと、一人で何とか解決しなくてはいけないのだ。孤立していたりする状況もあるかと思いますが、結構そういった状況が多いです。

虐待という言葉を使うかどうかは置いておいて、虐待に関するようなことを相談、例えば子どもに当たってしまいそうだな、そういう話をする

のって、やはりそんなに簡単なことではないです。やはり虐待に関心を持ってらっしゃる方々とかは、また少し違う視点からも物事を見れると思うのですが、でもやはり一般的に言うと、そういう虐待に関するような話を相談するってことは、何か人からひどく責められたりだとか、責任追及されたりだとか、そういう話をするイメージってあると思うのですね。怖いと思うのですよ。そうなったら、人は無意識下に隠そうとします。だから、きっと世の中には、データとして上がってくる以上にもっともっと虐待が色んなところで起こっているはずですよ。きっと私も過去、その一人として、多分カウントされてなかったと思うので、世の中に今ただただ耐えている、耐えるしかない、そういう状況で耐えている子どもがたくさんいます。親御さんも苦しんでいます。

その中で、どうしたらその親御さんたちが少しでも早い段階で助けを求めたり、何らかケアしていくこと。私も辛いですという声を上げてくれるだろうかとなった時に、まず例えばそういう親御さんに対して、「子育ての悩みをお話しませんか。」「聞かせてくれませんか。」というふうに傾聴しているような方々ってたくさん世の中にいます。まずこれが非常にとっても大事だと思うのです。その受け皿を増やしていく、広げていくことって、まず絶対大事だと思うのです。

なんです、それが幾らあったとしても、やはりそこに話さない人は話さないのです。話せないのです。では、そういった方々がどうしたらそういった方とつながって、虐待を少しでも未然に防いでいけるかとなった時に、私は一つ、非常に大事なことに気付きました。この活動を続けてきて、色んな当事者の方々から色んな本音を聞く中で気付いたのです。それは、今までずーっと、もうずーっとずーっと物すごく苦しんできたこの辛い気持ち、それをやっと分かってもらえた、やっと受け止めてもらえた、やっと否定せず聞いてもらえたという体験なのです。そういう、この人は私のことを分かってくれと思える人に対しては、少しずつ心を開いていけたりするのです。その人だったら話せるということがあります。誰でもいい訳ではないのです。自分のことを分かってくれて受け止めてくれる。肯定してくれる。そういった方々にだったら話せる場所があるのだと、私は当事者の方々から気付かされま

した。私も元当事者だったようなものですがけれども。

私のところに手紙やメールを送ってくださる方々は、子どもも大人も含めてですけど、私の作る音楽とか動画をネット上に色々公開していて、それを見て私のことを分かってくれたって実感するらしいのです。それを作っている私、悠々ホルンという人間ならそれを話せるのではないかと、分かってくれるのではないかなと思って、みんな送ってくださるらしいのです。では、どうしたら、分かってもらえたという、そういう体験ができるような、そういう機会を作れるだろうか。私は今、現時点で幾つかのそのアイデアを持っています。今日は時間がほとんどないので、今それをここで話しすることはできません。ただ、今日、私は結構遠いところから来ておりまして、なかなかそんなに簡単に来れる距離ではないかと思うのですが、フォーラムが終わって急いで帰る理由もないので、よかったです終わった後にでも何か声を掛けてもらえたらうれしいです。特に支援者の方々とかにつながれたら何か今後できるかもしれませんし。

その中で一つ、私は歌を通じて色々表現活動をやってきたのですが、そういった苦しんでいる方々が送ってくれるその本音、SOS、またそこに私自身の実体験も含め、そういったリアルに起こっている、現実で起こっていることを歌にしてみました。それを分かてもらえたという体験を、その音楽からして結構、話してくれる人もそうですし、色んな支援者の方々とつながっていた人もたくさんいるのですけど、今日は、この限られた時間の中でもう1曲だけ歌を歌わせていただきたいと思います。

この曲も非常に大事にしている曲で、家族をテーマにした歌です。最後にありったけのこの気持ちを全部込めてお届けしたいなと思います。もし、今日少しでももっと話を聞いてみたいとか、もう少し知りたいなと思ったら、よかったです悠々ホルンを調べてみてください。多分、何か色々分かると思います。もしくは、今日終わった後、声かけてみてください。

それでは、もう1曲、「おかえり」という曲を聞いてください。私の実体験をもとにつくった曲です。

「おかえり」

ありがとうございました。悠々ホルンでした。